衣料管理情報

合成毛皮（フェイクファー）のパイル熱収縮

冬物衣料のジャンパーやコートには、衿周りや袖口などに毛皮や合成毛皮（フェイクファー）などを装飾しているものが多く出回っています。今回は、装飾用のフェイクファーのパイルがスチームでの仕上げにより収縮した事故事例を紹介します。

監修／クリーニング綜合研究所

クリーニング 処理方法に注意

衣類の状態

ケープのフードや身頃の縁に使用している合成毛皮の毛が短く縮れ、固まったようになっている。

原因

スチームによる仕上げが原因で、合成毛皮を構成しているアクリル系繊維が熱収縮したもの。

アクリル系繊維は、アクリルに塩化ビニルを化学的に結合させた繊維。アクリルは、湿潤下70℃前後で物理的な性質が大きく変化する。アクリル系繊維はアクリルよりもさらに耐熱性が劣ることから、タンブル乾燥や仕上げの熱によるトラブルに注意を必要とする。

事故の防止対策

アクリル、アクリル系の合成毛皮に60℃以上の温度になる処理は避けること。

合成毛皮（フェイクファー）

合成毛皮は、パイルの外観や風合いをフォックスやラクーンなど様々な種類の天然毛皮に似せたもの。裏側には織または編構造の基布が確認でき、一見して合成品であることが分かる。天然毛皮と同様にコートやジャットに縫製されたり、衿回りや袖口の飾り、コートのライナーなどに使用されることが多い。

合成毛皮に多く使用されるアクリルおよびアクリル系繊維は、染色性もよく様々な柄を表現することができ、耐薬品、耐カビ性にも優れている。

このため、天然毛皮と比較して扱いやすく、その雰囲気を安価で気軽に楽しむことができるが、熱の影響を受けやすいものが多いことから、受付や取扱いでは次のような注意が必要。

受付時のチェック

着用による毛倒れや毛乱れ、衿・裾回り・袖口などに擦れ、脱毛などがないかを確認する。

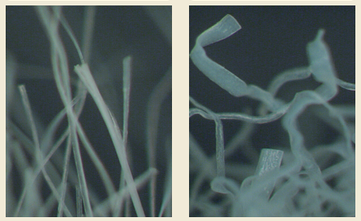
取扱いの注意

- パイルを内側にしてネットに入れ、石油系溶剤での短時間処理を原則にする
- ウエットクリーニングをする場合は毛乱れや収縮などが生じやすいので、利用者の了承を得た上で行う
- 乾燥はできる限り品物を動かさないようにして、60℃以下の温度で行う
- スチームによる仕上げは避ける
- レーヨン素材の合成毛皮は、水分により強度の低下や風合い変化、収縮などが生じるため注意が必要

■品　　名…ケープ
■素　　材…ウール 80%、ナイロン 20%
■取扱い絵表示…
■処 理 方 法…石油系溶剤によるドライクリーニング、タンブル乾燥、スチーム仕上げ

顕微鏡写真

正常部　事故部



事故部の繊維には種々の変化が生じている

合成毛皮の毛が短く縮れたようになっている

ケープ縁に合成毛皮を使用

● 「衣料管理情報」は全ク連ホームページから PDF をダウンロードいただけます。
全ク連 HP　http://www.zenkuren.or.jp　「お知らせ」→「衣料管理情報」

全国クリーニング生活衛生同業組合連合会制作
機関誌「クリーニングニュース」より